

9月22日 (木) 秋彼岸会法要



まだまだ、残暑の今日この頃ではございますが、どうにか暑さもおさまりそうな感じで、今吹いている風は私たちに微かな秋の訪れを感じさせてくれます。お彼岸を迎えますともう一年の三分の二が過ぎ去ろうとしていることに驚かされます。お釈迦様が、説かれる仏教の根本、諸行無常の響きを感じさせられます。私たちは、年輪を重ねていくにしたがい不安に苛まれるものです。だからこそ安穏たる日々を願うのであります。浄土三部経の「阿弥陀経」に、極楽は美しく七宝の池があり功德水が満ち溢れ、金沙が敷き詰められ、曼荼羅華が雨のように降り注いでいる、と説かれております。この世に極楽を望むべくもありませんが、せめて来世に思いを馳せ、そのために功德を積み心を乱すことなく歩いていくことによって、道は開けていくのであります。心を実らす秋のお彼岸をお暮らし下さい。



今年も、秋の彼岸法要会のご案内を申し上げます。秋の彼岸は、実り、恵みの秋。天地の恵みに感謝し、また、今ある私達の命の育んでいただいた、ご先祖様に報恩のご供養をしたいものです。お彼岸をお迎えするには、まずお仏壇の清掃をし、仏具などの手入れも終えておきましょう。また花も季節のものをお供えします。中日にはおはぎを、お供えします。さらにお彼岸の期間中、お霊膳やお菓子、果物などをお供し、ご先祖の供養しましょう。そして、家族揃って仏壇に手を合わせ、また、ご先祖様のお墓参り、お寺参りをして、いただきたいと思ひます。

当山の彼岸法要会は、9月22日(木)です。

当日、午後一時から一席、一時間の、法話もございます。お誘い合わせのお参りをお待ち申し上げます。

称ふれば 我も仏も無かりけり

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 (西行)

★お彼岸の日程・・・

随 時

一般塔婆申込み受付

12:30 開 白

詠唱奉納

1:00 法 話

2:00 休 憩

☆2:30 おつとめ塔婆

本回向

4:00 終 了

詠唱奉納

月影 彼岸等 追善

今回もテープ等に合わせ
て行います。

法 話

お楽しみに

三世地藏尊と地蔵盆

以前から比べますと 小規模になりましたが 地蔵盆 三世地藏尊を有志の方々の協力を得まして 町内の地蔵盆に合わせまして8月22日にお祀りをいたしました。近隣近在の子供たちのお参りを頂きまして、にぎにぎしくおこなうことができました。お手伝い賜りました方々、ご苦労様、有り難うございました。



★お願い★ 今まで、地蔵盆をお世話していただいた方々が、高齢によりお世話いただくことが難しくなりました。8月22日、一日のみのお祀りとなりました。お世話いただくお方ございましたら、よろしくお願ひ申し上げます。 合掌



おひがん

○けふもまた ころの鉦をうち鳴し うち鳴しつつあくがれて行く(牧水)

ほとんどの仏教行事は年一回ですが、このお彼岸は春と秋と年二回、しかも一週間つとめられます。

春のお彼岸は厳しく寒い冬に耐え、暖かい日差しに大地の芽生えを感じ、秋のそれはようやく残暑もおさまり、やがてくる澄んだ秋晴れと自然のめぐみに生きる喜びを満喫します。しみじみと時のうつろい、ゆたかな季節感を味わえる行事といえます。しかしそれは逆にいえば、厳しい自然条件があって初めて、おだやかな、暖かい、良い季節を味わえるということではないでしょうか。



広い世界の中には、一年中ポカポカと暖かい国もあるでしょう。真冬でもそんなに寒くない国もあります。真夏でもジメジメせず暑くない地域もあります。いつもいつも適度な暖かさ、エアコンディショナーが適確に作動しているような自然条件、そういうところ、そういう国だったらと思ひますが、実際はそうではありません。そうそうまくゆくものではありません。 私たちの一生も結局は同じことではないでしょうか。

若い時、元気な時の時間は長く、病氣や苦しい時の一日は二十四時間の半分くらいで過ぎてくれたらと考えますが、そうはいきません。良い時も悪い時も同じ時間で過ぎ、楽しいことも苦しいことも、みなごちゃ混ぜになって過ぎてゆくのが私たちの一生です。「日日是好日」という心境になかなかないのが、私たちの実際の姿ではないでしょうか。しかしどんな時にも、私の最後あこがれてゆくところはここだ、という確たるものがあれば、凡夫の心も少しは進んでゆきます。

法然上人は「聖道門の修行は智恵をきわめて生死をはなれ、浄土門の修行は愚痴にかえりて極楽にうまるとしるべし」とおっしゃいました。

私の還ってゆくところは、あのお陽さまが沈んでゆく西方極楽浄土である。まちがいなく生まれて、やがてこの私も仏と成らせていただけるという確信が、今日の私の一日を励ましてくれます。そういう大安心があって初めて、どんなことがあっても、つらい時も苦しい時も「けふもまた」というあらたな気持ちで「心の鉦をうち鳴しうち鳴し」て生きてゆけるのではないのでしょうか。

私のあこがれてゆく先はさとりの世界、浄らかな国です。ゆめ、地獄・餓鬼・畜生に落ち戻ってはなりません。ゆたかな自然のめぐみの中で、心静かに念仏に精進していただくのがお彼岸です。